

浜の活力再生広域プラン

令和8～12年度

第3期

1 広域水産業再生委員会

組織名	佐伯市広域水産業再生委員会
代表者名	会長 疋田 一則（大分県漁業協同組合 鶴見支店運営委員長）

広域委員会の 構成員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐伯地区地域水産業再生委員会（大分県漁業協同組合、佐伯市、南部漁業青年協議会、佐伯地区漁協女性部連絡協議会） ・ 大分県漁業協同組合水産物加工処理施設 ・ 米水津はまち養殖漁業生産組合 ・ 大分県
オブザーバー	随時追加

対象となる地 域の範囲及び 漁業の種類	大分県佐伯市		
	地区	正組合員	漁業種類
	上浦地区	43人	小型底曳網漁業（31）、船曳網漁業（22）、大中まき網漁業（3）、中小まき網漁業（5）、刺網（建網）漁業（113）、大型定置網漁業（3）、小型定置網漁業（32）、延縄漁業（12）、一本釣り漁業（162）、潜水漁業（112）、採貝（60）・採藻（17）、魚類養殖（74）、貝類養殖（19）他（68）
	佐伯地区	120人	
	鶴見地区	196人	
	米水津地区	101人	
	上入津地区	146人	
	下入津地区	204人	
	蒲江地区	108人	
	名護屋地区	51人	
計	969人		
(令和7年9月時点)			

2 地域の現状

(1) 地域の水産業を取り巻く現状等

大分県佐伯市は県の南部に位置し、平成17年3月に佐伯市と南海部郡5町3村が合併し、九州で一番面積が広い新たな佐伯市として誕生した。リアス式海岸の複雑な地形と森からの豊富な栄養塩に恵まれた漁場では多彩な天然魚介類が漁獲され、その魚種は350種以上と言われており、県内で最も水産業が盛んな地域である。市はこれまでに「漁港漁場整備長期計画」に基づき、漁船の停泊基地等の施設や漁村集落の環境を整備し、水産振興施策として「第2次佐伯市総合計画」に基づいた各種放流事業を核とした栽培漁業、安心・安全で健康な魚を育てる養殖漁業、将来の佐伯市の水産業を担う後継者の育成、大分県漁業協同組合と連携した共同利用施設の整備等を推進してきた。

これにより漁船漁業ではイワシ、アジ・サバ類、マダイ、クルマエビ、アワビ等の魚介類を主体とし、養殖漁業では海面小割式筏でのブリ養殖や陸上水槽によるヒラメ養殖等が展開されている。

市の水産業を取り巻く現状は、消費者の魚離れや消費者ニーズの多様化が進行する中、様々な取組にも関わらず漁船漁業では漁獲量減少や資材高騰、養殖漁業では魚価低迷や餌料高騰等により、

漁業者は厳しい経営を強いられている。また、市内各地に建設されている施設は漁業最盛時に建設されたものが多く、老朽化対策が課題となっており、卸売市場、出荷用荷捌所及びその付帯施設など、拠点施設の集約化・機能強化が急務となっている。加えて、漁村地域では、高齢化や後継者不足による漁業就労者の減少など、新規就労者の確保も大きな問題となっている。そのような中、佐伯地区の基幹魚種である養殖ブリについては令和6年8月に県漁協のブリ加工処理施設が新たに増設され、省人化と出荷量拡大や付加価値化の推進など、マーケットや環境変化に対応した産地づくりを進めている。

(2) その他の関連する現状等

本市の令和2年の国勢調査における人口は、66,851人となっている。それから算出した令和12年(2030年)における人口は、約55,139人と推計される。人口における65歳以上の高齢者の割合は令和7年3月31日現在で42.3%であり、高齢化が加速化している。産業別人口では、第3次産業就業者が65%と多く、次いで第2次産業就業者が26%、漁業者などの第1次産業就業者は8%で一番少なくなっている。

東九州自動車道の開通により主要都市との移動時間の短縮による交流、産業や経済の活性化に期待が高まっている。

3 競争力強化の取組方針

(1) 機能再編・地域活性化に関する基本方針

①前期の浜の活力再生広域プランの評価(成果及び課題等)

②今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

第2期に引き続き、佐伯市の基幹である水産業の競争力を強化し、佐伯市全体の地域活性化を図るため、佐伯市広域水産業再生委員会が中心となり、地元水産加工業者、流通商社、佐伯市、大分県等の協力による各種取組を行うことで地域ブランドの確立を目指す。また、地元、県内、国内及び海外への販路拡大に取り組み、「佐伯産」魚の消費拡大を加速する。

基本方針は、以下のとおりとする。

◆付加価値化

養殖ブリの国内マーケットは頭打ちのため、国内向け生産は現状維持を基本としつつ、ブランド化やフィレ加工および端境期出荷による高付加価値化で生産額向上を目指す。

令和6年統計によると、大分県の養殖ブリは、鹿児島県・愛媛県に次いで全国3位の生産量を誇

り、佐伯市は県内生産量の80%を担う有数の産地となっている。大分県漁業協同組合では、養殖ブリを『豊の活ぶり』として銘柄化し、高品質な生産に努めている。また、平成22年より柑橘系の抗酸化作用をもつカボスを餌に添加することで、鮮度をより長く保つことができ、魚臭さも抑えられ、さっぱりとした肉質に仕上がる『かぼすブリ』の銘柄化によりブランド力強化と付加価値向上を推進している。こうした中、令和6年8月のブリ加工処理施設増設により、省人化と出荷量拡大が実現したことから、国内向けフィレの供給力増大に注力するとともに、県産養殖ブリのリーディングブランドとして『かぼすブリ』のPR強化と関東以北への販路開拓に継続して取り組む。

養殖ヒラメについては、令和6年統計も佐伯市の生産量が全国1位を達成し、県内生産量の約98%を占める主力産地となっている。ブリと同様にブランド化に取り組んでいる『かぼすヒラメ（カボスを餌に添加して高品質化を実現）』を含めた養殖ヒラメの販売促進を強化する。『かぼすヒラメ』は販売価格が高く設定されているため、県内を中心に高級食材を扱うスーパーや飲食店、旅館、ホテル等へ重点的に販売促進を図るとともに、ヒラメフィレマシンを活用し、機械化によるヒラメフィレの増産に努める。併せて、「かぼすヒラメ生産マニュアル」や養殖ヒラメ「食中毒の防止対策ガイドライン」の徹底及び保冷や梱包等の処理方法も研究し、ブランド力強化に努めながら、県内で開催されるイベントや大都市圏で開催される大分県フェア等のイベント参加により販路拡大に取り組む。

養殖カキ類は全国的に生産され産地間競争が激しいため、他産地との差別化やブランド化等による消費拡大を進める。また、シングルシードによるマガキ養殖では他漁業から新たに着手した漁業者もみられるなど、市内他地区へ拡大の動きが広がっている。引き続き、佐伯市産カキの販売拡大とブランド化に向けた取組を推進し、国内外への販路拡大に取り組む。

真珠養殖では海外需要を背景とした単価上昇もあり、生産量は少ないながらも技術革新が進んでいる。引き続き、先進事例を活用しながら真珠の高品質化を進める。

◆魚食普及・消費拡大

国民健康・栄養調査報告によると若年層に限らず中高年層においても「魚離れ」が顕在化しているとの報告があることから、消費拡大や「魚離れ」防止を目的に「佐伯産」魚の利用促進を進める。具体的には、学校給食や病院食等の献立の一品として「佐伯産」魚の定着を図るとともに、市内各地区の水産加工業者が連携し各小中学校で七輪体験学習等を実施し、「佐伯産」魚の認知度向上と消費拡大に繋げる。また、市内各地区の中核的担い手が連携・率先して水産物の販促活動や魚の捌き方教室等のイベントに参加し、「佐伯産」魚のPRを行う。

◆輸出促進

水産白書（令和6年度）によると食用魚介類の年間消費量は1人当たり21.4kgと年々減少傾向にあり、今後も人口の減少が想定され、水産物の国内消費量は益々減少するものと思われる。一方、海外は重要なマーケット（主に東南アジア）に成長していることから、「佐伯産」魚（主に養殖ブリ）の生産・消費拡大を図るため、海外販路を開拓し、輸出の拡大に取り組む。

「佐伯産」魚の輸出を市内各地区が連携することにより、各地区から集約された輸出品を混載することが可能となり、輸送コストの削減が図れるため、水産関係団体や商社で構成する、佐伯市農林水産物等輸出促進協議会を中心に海外輸出戦略を構築し海外進出促進を図る。具体的には同協議会の中心メンバーである大分県漁業協同組合が主体となり、海外での商談会や展示会へ参加し、養殖ブリや水産加工品をPRする。輸出には、輸出国の各風土に対応した商品選別や品質管理を行う必要があることから、品質・衛生管理研修会等へ参加し、最新の海外輸出に関する情報収集を行う。さらに、協議会メンバーと共同で前述のマガキ生産者が輸出について取り組み、海外の富裕層なども視野に入れた輸出販路の開拓を行う。

また、大分県は人口10万人当たりの留学生数が全国第3位あることから、各地区青年部が連携し立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部短期大学（別府市）の留学生と魚料理教室等で交流を行い、母国（海外）への広告塔としての役を担ってもらうことで将来の需要喚起に繋げる。

◆先端技術を活用した漁業の推進

全般的な養殖業について、ICTを活用とした管理法の検討など、先端技術の導入について積極的に取り組む。具体的には、AIとカメラによる生け簀の中の養殖魚の体長・体高測定を行うシステムの導入や、ドローンによる赤潮着色域の確認、養殖用筏・生け簀の配置の確認など出船せずに実施できる体制の構築を行う。

◆共同利用施設の整備

長期的な展望に立った施設整備のあり方について協議・検討を進め、一部老朽化が激しい燃油補給施設や漁船保全修理施設等の共同利用施設の統廃合や水産鮮度保持施設等の漁業生産基盤の機能強化を行う。

また、多様化するマーケットニーズに対応できる生産・加工体制の確立に向け、米水津地区の県漁協水産物加工処理施設を市内全地区における養殖ブリの加工拠点として位置づけるとともに、高度衛生加工機能の強化と集荷環境機能の整備を図る。さらに、上入津地区を市内全地区のブリ養殖の生産拠点の一つとして位置づけ、漁場生産機能の強化と生産基盤の整備を図る。

市内に2つある公設卸売市場について、どちらの施設も老朽化が進んでいると同時に耐震性も満たしておらず大変危険な状態にある。喫緊の課題として、漁師をはじめとする市場関係者の安全を確保するため改修の必要が生じているが、今後の方針については、両市場の継続運用や統合の可能性も視野に入れて、関係者各位の合意形成を図り方針の決定を行う。

(2) 中核的担い手の育成に関する基本方針

①前期の浜の活力再生広域プランの評価（成果及び課題等）

--

②今期の浜の活力再生広域プランの基本方針

◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成

新規就業者をさらに受入れるため、国・県・市等の事業を活用した支援を行うとともに、積極的に各地で行われる就業フェアに参加する。漁業講座（漁業概要や体験漁業等）の開催やインターンシップの受け入れを充実させ、漁業への就業機会を広げながら、毎年、市内全地区の新規就業者28人を確保する。

また、各地区青年部で構成される南部漁業青年協議会に加入している漁業後継者を対象に漁業の知識、技術、資格等を習得させるための各種研修会や先進地視察等を行うことにより漁業後継者の資質向上を図るとともに、小・中・高校生を対象とした出前学習や職場体験等に参画し水産業の啓発活動を行うことにより将来の佐伯地区のリーダーとなるべき意識を醸成していくことで、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図る。

さらに、水産業が担い手にとって魅力ある職業となるには労働に見合った収入を得られることが基本的要素であるため、栽培漁業及び資源管理型漁業、養殖漁業を推進し、省エネ機器の導入や機械化等による漁業コスト削減、漁船の更新を図ることで、漁家経営の向上に資する。

(3) 資源管理に係る取組

漁業法及び大分県の漁業調整規則のほか、漁業者間で取り決めた資源管理を遵守し資源の維持・安定化に努める。

大分県漁業公社が生産した種苗による種苗放流を行い、獲り残した親魚の再生産効率を高める資源造成型栽培漁業の取組を推進することにより、資源の増大を図る。

主要な魚種であるクルマエビ、イサキ、アワビについては積極的に種苗放流を行うとともに、公的規制の遵守のほか、漁獲努力量削減につながる付加価値向上の取り組みを行う。

(4) 具体的な取組内容

1年目（令和8年度）

取組内容	<p>◆付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none">○管内のかぼすブリ・ヒラメ生産者、県漁協支店等が加盟するかぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、かぼすブリ・ヒラメについて、「かぼすブリ生産マニュアル」「かぼすヒラメ生産マニュアル」に基づいた養殖を徹底することで、品質を統一し、高品質な魚の安定生産を行う。○かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、大分県の協力の下、新しいかぼす資材である改良型パウダーによる給餌試験を実施し、給餌回数や給餌コストの削減を図りつつ、かぼすブリの品質向上や販売期間の拡大について検討を行う。○大分県漁協は、プライドフィッシュプロジェクトに参画し、『かぼすブリ』、『かぼすヒラメ』の認知度を向上させ、出荷量の増加につなげる。プライドフィッシュ公式サイトには、おいしいレシピやおいしいお店等の案内掲示があり、常に最新情報を発信する。○大分県漁協は、水産加工処理施設の商品出荷量を増加させるため、早朝加工、航空輸送による高鮮度なブリフィレを売りにした販路拡大に加え、加工歩留まり向上に向けた原魚の体重選別強化、および高性能加工機器を活用して給食や輸出を対象とした切り身加工の試行を行う。○端境期出荷に向け産卵時期をずらした人工種苗を活用した現場実証試験を行う。○大分県漁協は、養殖ヒラメの「食中毒の防止対策ガイドライン」に沿った検査体制を強化することで、マーケットの信頼性を確保する。大分県の技術指導の下、出荷時の全ロットの検鏡検査、イムノクロマトグラフィー法検査を実施し、安心・安全な養殖ヒラメの出荷を行う。○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、養殖ヒラメの販路拡大を目的として導入したフィレマシンを活用し、学校給食への供給や流通商社等へのヒラメフィレ販路拡大を実施する。○管内のイワガキ生産者で構成される佐伯市イワガキ協議会は、養殖イワガキの効率的な養殖手法を検討するとともに、各種イベントへの出店や地元直売施設への安定的な出荷により地産地消を目指す。○佐伯市シングルシード養殖協議会は、バスケット式シングルシード養殖の取組拡大を図るために、副業としてカキ養殖に興味を持つ管内漁船漁業者を対象に試験養殖希望者を募り、試験養殖の体制を構築する。また、安定した種苗供給体制を整えるため、県内の他産地とも情報交換して初期生残の向上を目指す。○管内の真珠養殖生産者が加盟する大分県真珠組合は、経営の維持・安定のため、浜揚げ後の珠の品質保持に関する取組を継続するとともに、佐伯産真珠の高品質化を目的とした抑制技術の改善など、情報交換等の各種取組を定期的実施する。 <p>◆魚食普及・消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none">○大分県漁協水産加工処理施設は、佐伯市とともに病院や学校等の各調理場配属の管理栄養士へ「佐伯産」魚の情報を月毎に提供し、病院食や学校給食の献立に組み入れやすい環境作りを行う。○管内の水産加工業者、県漁協支店等が加盟する大分県水産加工業振興協議会は、市内外の小学校で干物七輪焼き体験学習を企画し、魚食の効用、魚が加工されるまでの工程等について理解を深めてもらうとともに、実際に子供たち自身が焼いた水産加工品等を楽しんでもらい魚の美味しさを実感してもらう。○大分県漁協は、「佐伯産」魚の流通拡大のため、佐伯市、大分県の協力の下、県内外で開催される展示会に積極的に参加し、流通業者、飲食店等に佐伯産魚をPRする。
------	--

	<p>◆輸出促進</p> <p>○管内の生産者が加盟する佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、大分県漁協と連携し、輸出を計画する管内生産者に対して、衛生管理対策講習会を開催すると共に、ジェトロ、九州経済連が主催するフェア等に参加し、管内の水産物のPRを実施する。</p> <p>○管内の漁業後継者で組織される蒲江漁業青年部連絡協議会は、立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）の留学生に対し、養殖ブリや養殖ヒラメの魚料理教室等で交流を図り、母国（海外）への消費拡大を目指す。</p> <p>◆先端技術を活用した漁業の推進</p> <p>○佐伯市は、方塊や管内養殖生簀等の状況確認を迅速かつ安全に実施するため水中ドローンを整備する。</p> <p>○大分県漁業士連絡協議会魚類養殖部会は、国や佐伯市等の支援を受けて、AIとステレオカメラの測量技術による体測システムや自動給餌システム等の導入を継続して進める。</p> <p>◆共同利用施設の整備</p> <p>○佐伯市は、管内2か所の公設卸売市場のうち葛港市場については公設を廃止する方向で関係者各位と調整を行っていく。鶴見市場については高度な衛生管理に対応した一部閉鎖型の市場として建替えを行うため、仮設市場を整備し、解体工事を行う。（1年目）</p> <p>◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、新規就業対策や後継者の育成を目的として、漁業や水産加工業に興味がある高校生を対象としたインターンシップの受入れを行う。また、併せて佐伯市は、宿泊所の提供等のサポートを行うことで、市内全体で新規就業者28人を確保する。</p> <p>○佐伯市は、新規就業支援として、空き家サポート体制を整備する。</p> <p>○南部漁業青年協議会は、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図るため、漁業の知識、技術等の各種研修を実施する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上なくして後継者は育たないため、競争力強化型機器等導入緊急対策事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う。</p> <p>○再生委員会は、競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、浜の担い手漁船リース緊急事業により、その取組を支援する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上につながる省エネ漁業を推進し、統一的な航行規制の実施、集魚灯のLED化、定期的な船底状態の改善、低燃費型塗料の塗布等により、燃油コストの削減を図る。</p> <p>○大分県漁協は、労働力不足に対処するため、特定技能制度などを活用して外国人労働者の採用を積極的に進める。</p>
活用する支援措置等	<p>①広域浜プラン実証調査</p> <p>②競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑤効率的な操業体制の確立支援</p>

取組内容	<p>◆付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内のかぼすブリ・ヒラメ生産者、県漁協支店等が加盟するかぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、かぼすブリ・ヒラメについて、「かぼすブリ生産マニュアル」「かぼすヒラメ生産マニュアル」に基づいた養殖を徹底することで、品質を統一し、高品質な魚の安定生産を行う。 ○かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、大分県の協力の下、新しいかぼす資材である改良型パウダーによる給餌試験を実施し、給餌コストの削減をはかりつつ、かぼすブリの品質向上や販売期間の拡大について検討を行う。 ○大分県漁協は、プライドフィッシュプロジェクトに参画し、『かぼすブリ』、『かぼすヒラメ』の認知度を向上させ、出荷量の増加につなげる。プライドフィッシュ公式サイトには、おいしいレシピやおいしいお店等の案内掲示があり、常に最新情報を発信する。 ○大分県漁協は、水産加工処理施設の商品出荷量を増加させるため、早朝加工、航空輸送による高鮮度なブリフィレを売りにした販路拡大に加え、加工歩留まり向上に向けた原漁の体重選別化、および高性能加工機器を活用して給食や輸出を対象とした切り身加工の試行を行う。 ○端境期出荷に向け産卵時期をずらした人工種苗を活用した現場実証試験を行う。 ○大分県漁協は、養殖ヒラメの「食中毒の防止対策ガイドライン」に沿った検査体制を強化することで、マーケットの信頼性を確保する。大分県の技術指導の下、出荷時の全ロットの検鏡検査、イムノクロマトグラフィー法検査を実施し、安心・安全な養殖ヒラメの出荷を行う。 ○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、養殖ヒラメの販路拡大を目的として導入したフィレマシンを活用し、学校給食への供給や流通商社等へのヒラメフィレ販路拡大を実施する。 ○管内のイワガキ生産者で構成される佐伯市イワガキ協議会は、養殖イワガキの効率的な養殖手法を検討するとともに、各種イベントへの出店や地元直売施設への安定的な出荷により地産地消を目指す。 ○佐伯市シングルシード養殖協議会は、管内におけるマガキ種苗供給拠点として大入島（佐伯地区）を位置づけ、生産した種苗を元に試験養殖に着手する。試験養殖では継続したモニタリング調査と併行して地元での合意形成を図り、区画漁業権の取得を目指し、生産拡大を図る。 ○管内の真珠養殖生産者が加盟する大分県真珠組合は、経営の維持・安定のため、浜揚げ後の珠の品質保持に関する取組を継続するとともに、佐伯産真珠の高品質化を目的とした抑制技術の改善など、情報交換等の各種取組を定期的実施する。 <p>◆魚食普及・消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大分県漁協水産加工処理施設は、佐伯市とともに病院や学校等の各調理場配属の管理栄養士へ「佐伯産」魚の情報を月毎に提供し、病院食や学校給食の献立に組み入れやすい環境作りを行う。 ○管内の水産加工業者、県漁協支店等が加盟する大分県水産加工業振興協議会は、市内外の小学校で干物七輪焼き体験学習を企画し、魚食の効用、魚が加工されるまでの工程等について理解を深めてもらうとともに、実際に子供たち自身が焼いた水産加工品等を食してもらい魚の美味しさを実感してもらう。 ○大分県漁協は、「佐伯産」魚の流通拡大のため、佐伯市、大分県の協力の下、県内外で開催される展示会に積極的に参加し、流通業者、飲食店等に佐伯産魚をPRする。 <p>◆輸出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内の生産者が加盟する佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、大分県漁協
------	--

	<p>と連携し、輸出を計画する管内生産者に対して、衛生管理対策講習会を開催すると共に、ジェトロ、九州経済連等が主催するフェアに参加し、管内の水産物PRを実施する。</p> <p>○管内の漁業後継者で組織される蒲江漁業青年部連絡協議会は、立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）の留学生に対し、養殖ブリや養殖ヒラメの魚料理教室等で交流を図り、母国（海外）への消費拡大を目指す。</p> <p>◆先端技術を活用した漁業の推進</p> <p>○佐伯市は、方塊や管内養殖生簀等の状況確認を迅速かつ安全に実施するため水中ドローンを整備する。</p> <p>○大分県漁業士連絡協議会魚類養殖部会は、国や佐伯市等の支援を受けて、AIとステレオカメラの測量技術による体測システムや自動給餌システム等の導入を継続して進める。</p> <p>◆共同利用施設の整備</p> <p>○佐伯市は、鶴見市場において解体工事が完了したのち施設整備を行う。（2年目）</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、上入津地区において養殖施設の安全で安定した生産体制を構築するため方塊整備を行う。整備を行うことによって大型化する台風や異常気象による生け簀の避難作業がなくなり、それに伴う人件費、船舶燃料、潜水点検・修理に要する経費が軽減される。</p> <p>◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、新規就業対策や後継者の育成を目的として、県内の高校と交流し、漁業や水産加工業に興味がある高校生を対象としたインターンシップの受入れを行う。また、併せて佐伯市は、宿泊所の提供等のサポートを行う。毎年、市内全地区全体で新規就業者28人を確保する。</p> <p>○佐伯市は、新規就業支援として、空き家サポート体制を整備する。</p> <p>○南部漁業青年協議会は、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図るため、漁業の知識、技術等の各種研修を実施する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上なくして後継者は育たないため、競争力強化型機器等導入緊急対策事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う。</p> <p>○再生委員会は、競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、浜の担い手漁船リース緊急事業により、その取組を支援する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上につながる省エネ漁業を推進し、統一的な航行規制の実施、集魚灯のLED化、定期的な船底状態の改善、低燃費型塗料の塗布等により、燃油コストの削減を図る。</p> <p>○大分県漁協は、労働力不足に対処するため、特定技能制度などを活用して外国人労働者の採用を積極的に進める。</p>
活用する支援措置等	<p>①広域浜プラン実証調査</p> <p>②競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑤効率的な操業体制の確立支援</p>

取組内容	<p>◆付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内のかぼすブリ・ヒラメ生産者、県漁協支店等が加盟するかぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、かぼすブリ・ヒラメについて、「かぼすブリ生産マニュアル」「かぼすヒラメ生産マニュアル」に基づいた養殖を徹底することで、品質を統一し、高品質な魚の安定生産を行う。 ○かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、新しいかぼす資材である改良型パウダーによる給餌試験を実施し、給餌回数や給餌コストの削減を図りつつ、かぼすブリの品質向上や販売期間の拡大を行う。 ○大分県漁協は、プライドフィッシュプロジェクトに参画し、『かぼすブリ』、『かぼすヒラメ』の認知度を向上させ、出荷量の増加につなげる。プライドフィッシュ公式サイトには、おいしいレシピやおいしいお店等の案内掲示があり、常に最新情報を発信する。 ○大分県漁協は、水産加工処理施設の商品出荷量を増加させるため、早朝加工、航空輸送による高鮮度なブリフィレを売りにした販路拡大に加え、加工歩留まり向上に向けた原魚の体重選別強化、およびを実施する。高性能加工機器を活用して給食や輸出を対象とした切り身加工の試行を行う。 ○端境期出荷に向け産卵時期をずらした人工種苗を活用した現場実証試験を行う。 ○大分県漁協は、養殖ヒラメの「食中毒の防止対策ガイドライン」に沿った検査体制を強化することで、マーケットの信頼性を確保する。大分県の技術指導の下、出荷時の全ロットの検鏡検査、イムノクロマトグラフィー法検査を実施し、安心・安全な養殖ヒラメの出荷を行う。 ○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、養殖ヒラメの販路拡大を目的として導入したフィレマシンを活用し、学校給食への供給や流通商社等へのヒラメフィレ販路拡大を実施する。 ○管内のイワガキ生産者で構成される佐伯市イワガキ協議会は、養殖イワガキの効率的な養殖手法を検討するとともに、各種イベントへの出店や地元直売施設への安定的な出荷により地産地消を目指す。 ○佐伯市シングルシード養殖協議会は、生産した種苗を元に試験養殖を実施する。試験養殖では継続したモニタリング調査と併行して地元での合意形成を図り、区画漁業権の取得を目指し、生産拡大を図る。なお、佐伯市産バスケット式シングルシードカキの徹底した品質平準化を図るため、協議会による現地技術指導の強化を図る。 ○管内の真珠養殖生産者が加盟する大分県真珠組合は、経営の維持・安定のため、浜揚げ後の珠の品質保持に関する取組を継続するとともに、佐伯産真珠の高品質化を目的とした抑制技術の改善など、情報交換等の各種取組を定期的実施する。 <p>◆魚食普及・消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大分県漁協水産加工処理施設は、佐伯市とともに病院や学校等の各調理場配属の管理栄養士へ「佐伯産」魚の情報を月毎に提供し、病院食や学校給食の献立に組み入れやすい環境作りを行う。 ○管内の水産加工業者、県漁協支店等が加盟する大分県水産加工業振興協議会は、市内外の小学校で干物七輪焼き体験学習を企画し、魚食の効用、魚が加工されるまでの工程等について理解を深めてもらうとともに、実際に子供たち自身が焼いた水産加工品等を食してもらい魚の美味しさを実感してもらう。 ○大分県漁協は、「佐伯産」魚の流通拡大のため、佐伯市、大分県の協力の下、県内外で開催される展示会に積極的に参加し、流通業者、飲食店等に佐伯産魚をPRする。 <p>◆輸出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内の生産者が加盟する佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、大分県漁協
------	--

	<p>と連携し、輸出を計画する管内生産者に対して、衛生管理対策講習会を開催すると共に、ジェトロ、九州経済連等が主催するフェアに参加し、管内の水産物PRを実施する。</p> <p>○管内の漁業後継者で組織される蒲江漁業青年部連絡協議会は、立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）の留学生に対し、養殖ブリや養殖ヒラメの魚料理教室等で交流を図り、母国（海外）への消費拡大を目指す。</p> <p>◆先端技術を活用した漁業の推進</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、過去2年間のドローンの導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、AIとステレオカメラの測量技術による体測システム、自動給餌システム導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>◆共同利用施設の整備</p> <p>○佐伯市は、鶴見市場において、施設整備を行う。（3年目）</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、製氷施設を上浦地区に整備する。高品質な養殖ブリ生産による付加価値向上に加え、近隣の漁業者や養殖漁業者の運搬費などのコスト削減に貢献することを目的とする。</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、市場、共販所、荷捌き所等の集荷や利用状況の整理や施設点検を行う。また、その結果に基づいた施設の集約化・拠点化について検討する。</p> <p>◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、新規就業対策や後継者の育成を目的として、県内の高校と交流し、漁業や水産加工業に興味がある高校生を対象としたインターンシップの受入れを行う。また、併せて佐伯市は、宿泊所の提供等のサポートを行う。毎年、市内全地区全体で新規就業者28人を確保する。</p> <p>○佐伯市は、新規就業支援として、空き家サポート体制を整備する。</p> <p>○南部漁業青年協議会は、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図るため、漁業の知識、技術等の各種研修を実施する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上なくして後継者は育たないため、競争力強化型機器等導入緊急対策事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う。</p> <p>○再生委員会は、競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、浜の担い手漁船リース緊急事業により、その取組を支援する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上につながる省エネ漁業を推進し、統一的な航行規制の実施、集魚灯のLED化、定期的な船底状態の改善、低燃費型塗料の塗布等により、燃油コストの削減を図る。</p> <p>○大分県漁協は、労働力不足に対処するため、特定技能制度などを活用して外国人労働者の採用を積極的に進める。</p>
活用する支援措置等	<p>①広域浜プラン実証調査</p> <p>②競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑤効率的な操業体制の確立支援</p>

取組内容	<p>◆付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内のかぼすブリ・ヒラメ生産者、県漁協支店等が加盟するかぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、かぼすブリ・ヒラメについて、「かぼすブリ生産マニュアル」「かぼすヒラメ生産マニュアル」に基づいた養殖を徹底することで、品質を統一し、高品質な魚の安定生産を行う。 ○かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、新しいかぼす資材である改良型パウダーによる給餌試験を実施し、給餌回数や給餌コストの削減を図りつつ、品質向上や販売期間の拡大を行う。 ○大分県漁協は、プライドフィッシュプロジェクトに参画し、『かぼすブリ』、『かぼすヒラメ』の認知度を向上させ、出荷量の増加につなげる。プライドフィッシュ公式サイトには、おいしいレシピやおいしいお店等の案内掲示があり、常に最新情報を発信する。 ○大分県漁協は、水産加工処理施設の商品出荷量を増加させるため、早朝加工、航空輸送による高鮮度なブリフィレを売りにした販路拡大に加え、加工歩留まり向上に向けた原魚の体重選別強化、および高性能加工機器を活用して給食や輸出を対象とした切り身加工の試行を行う。 ○端境期出荷に向け産卵時期をずらした人工種苗を活用した現場実証試験を行う。 ○大分県漁協は、養殖ヒラメの「食中毒の防止対策ガイドライン」に沿った検査体制を強化することで、マーケットの信頼性を確保する。大分県の技術指導の下、出荷時の全ロットの検鏡検査、イムノクロマトグラフィー法検査を実施し、安心・安全な養殖ヒラメの出荷を行う。 ○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、養殖ヒラメの販路拡大を目的として導入したフィレマシンを活用し、学校給食への供給や流通商社等へのヒラメフィレ販路拡大を実施する。 ○管内のイワガキ生産者で構成される佐伯市イワガキ協議会は、養殖イワガキの効率的な養殖手法を検討するとともに、各種イベントへの出店や地元直売施設への安定的な出荷により地産地消を目指す。 ○佐伯市シングルシード養殖協議会は、生産した種苗を元に生産拡大を図る。佐伯市産バスケット式シングルシードカキの高品質化を実現し、成分分析など科学的な知見を集積する。 ○管内の真珠養殖生産者が加盟する大分県真珠組合は、経営の維持・安定のため、浜揚げ後の珠の品質保持に関する取組を継続するとともに、佐伯産真珠の高品質化を目的とした抑制技術の改善など、情報交換等の各種取組を定期的実施する。 <p>◆魚食普及・消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大分県漁協水産加工処理施設は、佐伯市とともに病院や学校等の各調理場配属の管理栄養士へ「佐伯産」魚の情報を月毎に提供し、病院食や学校給食の献立に組み入れやすい環境作りを行う。 ○管内の水産加工業者、県漁協支店等が加盟する大分県水産加工業振興協議会は、市内外の小学校で干物七輪焼き体験学習を企画し、魚食の効用、魚が加工されるまでの工程等について理解を深めてもらうとともに、実際に子供たち自身が焼いた水産加工品等を食してもらい魚の美味しさを実感してもらう。 ○大分県漁協は、「佐伯産」魚の流通拡大のため、佐伯市、大分県の協力の下、県内外で開催される展示会に積極的に参加し、流通業者、飲食店等に佐伯産魚をPRする。 <p>◆輸出促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内の生産者が加盟する佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、大分県漁協と連携し、輸出を計画する管内生産者に対して、衛生管理対策講習会を開催すると共に、ジェトロ、九州経済連等が主催するフェアに参加し、管内の水
------	--

	<p>産物PRを実施する。</p> <p>○管内の漁業後継者で組織される蒲江漁業青年部連絡協議会は、立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）の留学生に対し、養殖ブリや養殖ヒラメの魚料理教室等で交流を図り、母国（海外）への消費拡大を目指す。</p> <p>◆先端技術を活用した漁業の推進</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、ドローンの導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、AIとステレオカメラの測量技術による体測システムや、自動給餌システム等の導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>◆共同利用施設の整備</p> <p>○佐伯市は、鶴見市場において整備を行う（4年目）。あわせて、同市場で卸売業務を担う大分県漁業協同組合は、高度衛生管理型荷さばき所で使用する屋内用フォークリフト等の整備を行う。</p> <p>○市場、共販所、荷捌き所等の集荷や利用状況の整理や施設点検を行った結果に基づいて、施設の集約化・拠点化が適当な施設リストを作成する。</p> <p>◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、新規就業対策や後継者の育成を目的として、県内の高校と交流し、漁業や水産加工業に興味がある高校生を対象としたインターンシップの受入れを行う。また、併せて佐伯市は、宿泊所の提供等のサポートを行う。毎年、市内全地区全体で新規就業者28人を確保する。</p> <p>○佐伯市は、新規就業支援として、空き家サポート体制を整備する。</p> <p>○南部漁業青年協議会は、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図るため、漁業の知識、技術等の各種研修を実施する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上なくして後継者は育たないため、競争力強化型機器等導入緊急対策事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う。</p> <p>○再生委員会は、競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、浜の担い手漁船リース緊急事業により、その取組を支援する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上につながる省エネ漁業を推進し、統一的な航行規制の実施、集魚灯のLED化、定期的な船底状態の改善、低燃費型塗料の塗布等により、燃油コストの削減を図る。</p> <p>○大分県漁協は、労働力不足に対処するため、特定技能制度などを活用して外国人労働者の採用を積極的に進める。</p>
活用する支援措置等	<p>①広域浜プラン実証調査</p> <p>②競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑤効率的な操業体制の確立支援</p>

5年目（令和12年度）

<p>取組内容</p>	<p>◆付加価値化</p> <ul style="list-style-type: none"> ○管内のかぼすブリ・ヒラメ生産者、県漁協支店等が加盟するかぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、かぼすブリ・ヒラメについて、「かぼすブリ生産マニュアル」「かぼすヒラメ生産マニュアル」に基づいた養殖を徹底することで、品質を統一し、高品質な魚の安定生産を行う。 ○かぼすブリ・かぼすヒラメ販売促進協議会は、新しいかぼす資材である改良型パウダーによる給餌を普及し、給餌回数や給餌コストの削減を図りつつ、品質向上や販売期間の拡大を行う。 ○大分県漁協は、プライドフィッシュプロジェクトに参画し、『かぼすブリ』、『かぼすヒラメ』の認知度を向上させ、出荷量の増加につなげる。プライドフィッシュ公式サイトには、おいしいレシピやおいしいお店等の案内掲示があり、常に最新情報を発信する。 ○大分県漁協は、水産加工処理施設の商品出荷量を増加させるため、早朝加工、航空輸送による高鮮度なブリフィレを売りにした販路拡大に加え、加工歩留まり向上に向けた原魚の体重選別強化、および高性能加工機器を活用して給食や輸出を対象とした切り身加工の実施により、多様化する需要に応える出荷体制の検討・構築を行う。 ○端境期出荷に向け産卵時期をずらした人工種苗を活用した現場実証試験に基づいた養殖の推進を行う。 ○大分県漁協は、養殖ヒラメの「食中毒の防止対策ガイドライン」に沿った検査体制を強化することで、マーケットの信頼性を確保する。大分県の技術指導の下、出荷時の全ロットの検鏡検査、イムノクロマトグラフィ法検査を実施し、安心・安全な養殖ヒラメの出荷を行う。 ○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、養殖ヒラメの販路拡大を目的として導入したフィレマシンを活用し、学校給食への供給や流通商社等へのヒラメフィレ販路拡大を実施する。 ○管内のイワガキ生産者で構成される佐伯市イワガキ協議会は、養殖イワガキの効率的な養殖手法を検討するとともに、各種イベントへの出店や地元直売施設への安定的な出荷により地産地消を目指す。 ○佐伯市シングルシード養殖協議会は、生産した種苗を元に試験養殖を実施する。試験養殖では継続したモニタリング調査と併行して地元での合意形成を図り、区画漁業権の取得を目指し、生産拡大を図る。科学的な知見に基づいた高品質な製品拡大の実現を図る。 ○管内の真珠養殖生産者が加盟する大分県真珠組合は、経営の維持・安定のため、浜揚げ後の珠の品質保持に関する取組を継続するとともに、佐伯産真珠の高品質化を目的とした抑制技術の改善など、情報交換等の各種取組を定期的実施する。 <p>◆魚食普及・消費拡大</p> <ul style="list-style-type: none"> ○大分県漁協水産加工処理施設は、佐伯市とともに病院や学校等の各調理場配属の管理栄養士へ「佐伯産」魚の情報を月毎に提供し、病院食や学校給食の献立に組み入れやすい環境作りを行う。 ○管内の水産加工業者、県漁協支店等が加盟する大分県水産加工業振興協議会は、市内外の小学校で干物七輪焼き体験学習を企画し、魚食の効用、魚が加工されるまでの工程等について理解を深めてもらうとともに、実際に子供たち自身が焼いた水産加工品等を食してもらい魚の美味しさを実感してもらう。 ○大分県漁協は、「佐伯産」魚の流通拡大のため、佐伯市、大分県の協力の下、県内外で開催される展示会に積極的に参加し、流通業者、飲食店等に佐伯産魚をPRする。
-------------	---

	<p>◆輸出促進</p> <p>○管内の生産者が加盟する佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、大分県漁協と連携し、輸出を計画する管内生産者に対して、衛生管理対策講習会を開催すると共に、ジェトロ、九州経済連等が主催するフェアに参加し、管内の水産物PRを実施する。</p> <p>○管内の漁業後継者で組織される蒲江漁業青年部連絡協議会は、立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）の留学生に対し、養殖ブリや養殖ヒラメの魚料理教室等で交流を図り、母国（海外）への消費拡大を目指す。</p> <p>◆先端技術を活用した漁業の推進</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、ドローンの導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>○再生委員会は、講習会を開催し、AIとステレオカメラの測量技術による体測システムや自動給餌システム等の導入試験結果を管内漁協支店、生産者に広く伝達し、漁協支店単位または、希望する生産者での導入を推進する。</p> <p>◆共同利用施設の整備</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、市場、共販所、荷捌き所等の集約化・拠点化が適当な施設について、作成したリストをもとに統廃合を行う。</p> <p>○大分県漁協は、佐伯市、大分県の協力の下、これまでの取り組み結果を検証し、統廃合を行ったものについては、その後の状況等も追跡調査し、長期施設整備計画策定に向けた参考資料とする。</p> <p>◆新規就業者及び中核的担い手の確保・育成</p> <p>○大分県漁協は、新規就業対策や後継者の育成を目的として、県内の高校と交流し、漁業や水産加工業に興味がある高校生を対象としたインターンシップの受入れを行う。また、併せて佐伯市は、宿泊所の提供等のサポートを行う。毎年、市内全地区全体で新規就業者28人を確保する。</p> <p>○佐伯市は、新規就業支援として、空き家サポート体制を整備する。</p> <p>○南部漁業青年協議会は、地区全体の核となる経営マインドと地域創出力を持った中核的担い手の育成と組織力強化を図るため、漁業の知識、技術等の各種研修を実施する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上なくして後継者は育たないため、競争力強化型機器等導入緊急対策事業や広域浜プラン実証調査により収入向上・省コスト対策を行う。</p> <p>○再生委員会は、競争力強化を目指す漁業者を中核的漁業者と位置づけ、浜の担い手漁船リース緊急事業により、その取組を支援する。</p> <p>○再生委員会は、漁家所得の向上につながる省エネ漁業を推進し、統一的な航行規制の実施、集魚灯のLED化、定期的な船底状態の改善、低燃費型塗料の塗布等により、燃油コストの削減を図る。</p> <p>○大分県漁協は、労働力不足に対処するため、特定技能制度などを活用して外国人労働者の採用を積極的に進める。</p>
活用する支援措置等	<p>①広域浜プラン実証調査</p> <p>②競争力強化型機器等導入緊急対策事業</p> <p>③水産業競争力強化緊急施設整備事業</p> <p>④浜の担い手漁船リース緊急事業</p> <p>⑤効率的な操業体制の確立支援</p>

(5) 関係機関との連携

◆付加価値化、魚食普及・消費拡大

・養殖ブリ、養殖ヒラメ、イワガキ、マガキについては、大分県、佐伯市、大分県漁業協同組合、全国漁業協同組合連合会等と連携を行っていく。学校給食や七輪体験学習では、佐伯市栄養士会や佐伯市内小学校と連携を図っていく。

◆輸出促進

・農林水産物の輸出を強化・促進のため、大分県、佐伯市、佐伯市農林水産物等輸出促進協議会を中心に、取り組んでいく。また、ジェトロ、九州経済連等が実施する各種イベントに積極的に参加し、販路拡大を目指す。
・立命館アジア太平洋大学（別府市）や別府溝部学園短期大学（別府市）で魚料理教室等を開催し、母国（海外）への消費拡大を目指す。

◆共同利用施設の整備

・共同利用施設の整備にあたり予算に関する件は、大分県、佐伯市、大分県漁業協同組合と協議を行っていく。また、広域再生委員会及び再生委員会において施設整備に向けた計画協議を行っていく。

◆中核的担い手の確保・育成

大分県漁業協同組合や南部漁業青年協議会と連携し、各種研修や支援等を実施していく。

(6) 他産業との連携

◆付加価値化、魚食普及・消費拡大

各種イベントに参加し、水産物PRや販売等を行うため観光産業と連携して実施する。

◆輸出促進

佐伯市農林水産物等輸出促進協議会は、市の特産品を海外に輸出することを目的としているため、農業、林業とも連携を図っていく。

4 成果目標

(1) 成果目標の考え方

① 機能再編・地域活性化の取組に係る成果目標

◆ブリフィレの量産

高付加価値化・輸出拡大の加速へとつながる、養殖ブリの加工拠点と位置づけた県漁協水産加工処理施設におけるブリフィレの量産（加工処理尾数）を成果目標とする。

◆『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』の出荷量の増加

『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』を「浜の活力再生広域プラン」における取組重点魚種と位置づけている。これらかぼす養殖魚の単価に関して、『かぼすブリ』は通常の養殖ブリより約50円/kg高く、また、『かぼすヒラメ』は通常の養殖ヒラメより100円/kg高い単価設定をとっていることから、ブランド力を強化し販路を拡大することで、さらなる増産、生産額の向上を目指す。

ブランド化・販促強化により、高付加価値の『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』の出荷量（生産量）の増加を成果目標とする。

② 中核的担い手の育成の取組に係る成果目標

◆新規就業者の確保

漁業者の高齢化が進む中で、水産業を将来にわたり発展させていくためには、地域を牽引する優れた経営感覚を待ったリーダーを確保・育成することが必要である。中核的担い手の組織の強化、資質の向上、所得の向上対策と併せ、ここでは中核的担い手の一翼を担ってもらうことになる新規就業者の確保を成果目標とする。

(2) 成果目標

① 機能再編・地域活性化の取組に係る成果目標

県漁協水産加工処理施設における養殖ブリ年間加工処理尾数	基準年	令和6年度	: 84万尾
	目標年	令和12年度	: 100万尾
『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』の出荷量の増加	かぼすブリ	基準年	令和6年度 : 296 t
		目標年	令和12年度 : 341 t
	かぼすヒラメ	基準年	令和6年度 : 64 t
		目標年	令和12年度 : 74 t

② 中核的担い手の育成の取組に係る成果目標

新規就業者の確保	基準年	令和6年度 : 29人/年 (単位)
	目標年	令和12年度 : 28人/年 (単位)

(3) 上記の算出方法及びその妥当性

① 機能再編・地域活性化の取組に係る成果目標

◆処理尾数の増加

基準年 : 県漁協水産加工処理施設における令和6年度養殖ブリ加工処理尾数 (大分県漁業協同組合調べ)

目標年 : 施設整備、販売促進等を図ることによって、ブリフィレを量産させる。現行施設の稼働時間を延長し機器の導入による作業のオートメーション化を見込み、年間100万尾を目標とした。

◆『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』の出荷量の増加

基準年 : 市内で養殖された令和6年度生産量 (大分県漁業協同組合調べ)

目標年 : 前期に引き続き、販売促進、販路拡大等を図ることによって、『かぼすブリ』・『かぼすヒラメ』の出荷量を増加させる。『かぼすブリ』については知名度の更なる向上 (特に、県外)、高単価設定の『かぼすヒラメ』についてはターゲットを絞った販路開拓を重点的に行うことにより需要を喚起していき3%/年増しの目標とする。

② 中核的担い手の育成の取組に係る成果目標

◆新規就業者の確保

基準年 : 市内全地区における令和6年度新規就業者数 (大分県調べ)

目標年 : 県内の高校との交流やインターンシップの受入れを行うとともに、就業後の空き家サポート体制等をPRすることで、新規就業者を増加させる。その年の雇用状況は社会的要因等にも左右されるため、基準年とほぼ同数28人/年の5ヵ年継続 (延べ140人) を目標とした。

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生広域プランとの関係性
水産業競争力強化緊急事業・広域浜プラン実証調査	「浜の活力再生プラン」に取り組んでいる市内漁協（8支店）が連携し、浜の機能再編等を推進するための取り組むための計画づくりを行う。
水産業競争力強化緊急事業・競争力強化型機器導入緊急対策事業	漁業者が漁業コスト削減のために生産性の向上、省力・省コスト化に資する漁業用機器等の導入のための支援を行う。
水産業競争力強化緊急事業・水産業競争力強化漁船導入緊急支援事業	中核的漁業者の収益向上に必要となる漁船リースの取り組みを支援する。
水産業競争力強化緊急施設整備事業	地方公設卸売市場整備、市場・荷捌所・共販所等の統廃合、水産物加工処理施設整備、冷凍保管庫整備、方塊整備、ドローン導入、魚体サイズ算出システム導入等。